

2019年度スポーツ庁委託事業

「Special プロジェクト 2020（特別支援学校等を活用した
地域における障害者スポーツの拠点づくり事業）」
成果報告書

山口県教育委員会

1 地域が有する課題の状況

・ 地域の障害者スポーツの実施状況、応募の経緯等

平成23年度に本県で開催した山口国体・全国障害者スポーツ大会では、各特別支援学校の部活動等を強化し、全国大会での入賞や、日本代表として世界で活躍する選手を輩出するなどの成果を得ることができた。

この取組を一過性のものとさせないためにも、継続的な取組ができる体制の整備と有望な選手の発掘・育成、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境の整備が求められている。

このため、昨年度に引き続き、国事業を活用し、学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の一層の充実を図り、心触れ合う機会を通じて共生社会の実現に向けて障害や障害のある子どもたちへの理解を促進するとともに、障害のある子どもたちが、生涯にわたりスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう取組を進めている。

2 事業実施の目的、基本的事項

・ 解決すべき課題の内容

本県では、障害者が、学校や地域におけるスポーツ活動等に参加できる機会の増加や、継続的にスポーツ活動等を実施できる環境の整備が課題となっている。そこで、これまでの各特別支援学校の特色に応じて取り組んでいるスポーツ活動等を、在校生だけでなく卒業生や地域の障害者の参加ができる地域スポーツクラブに発展させ、特別支援学校を拠点としたスポーツ活動等に継続的に参加できる環境を創出する。

・ 事業実施体制

県では、障害者スポーツ・レクリエーション推進協議会を開催し、学識経験者や関係団体との連携により、施策及び事業の円滑な推進に向けた取組を進める。

また、複数の特別支援学校を、生徒の実態に応じた競技種目を取り組む障害者地域スポーツのモデル校として指定し、障害者スポーツ指導員等の参画のもと、種目別検討委員会を開催するなど、モデル校における活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営を行う。

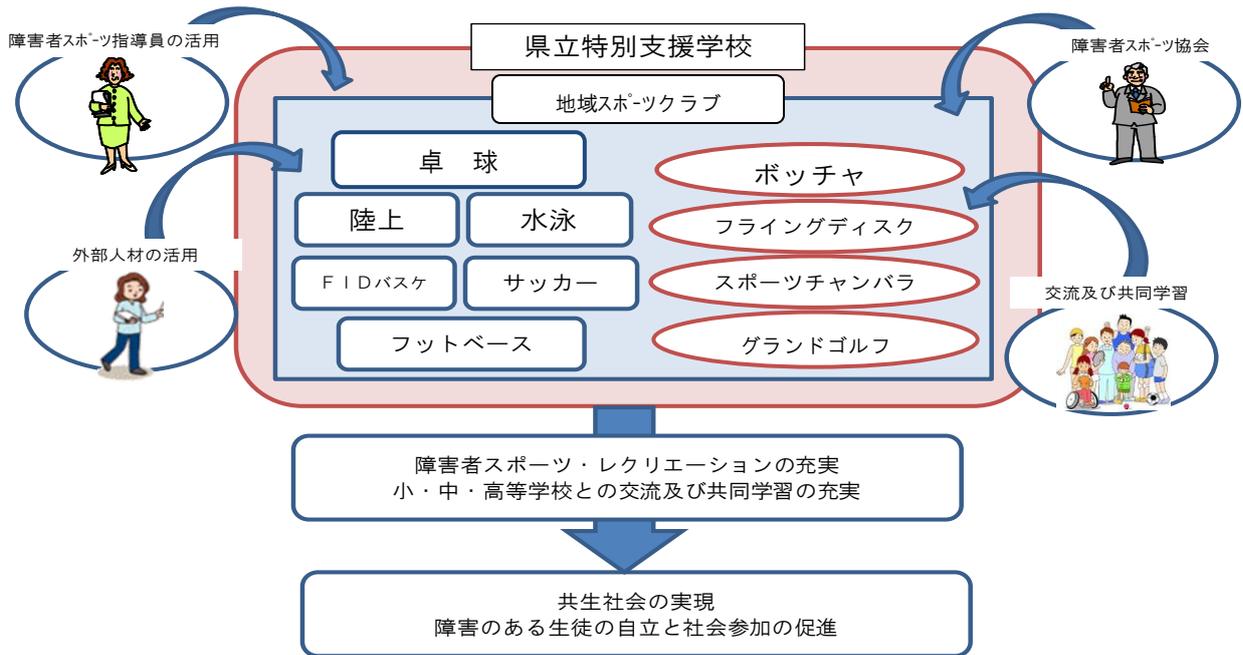
・ 県推進協議会の構成等

事務局：山口県教育庁特別支援教育推進室

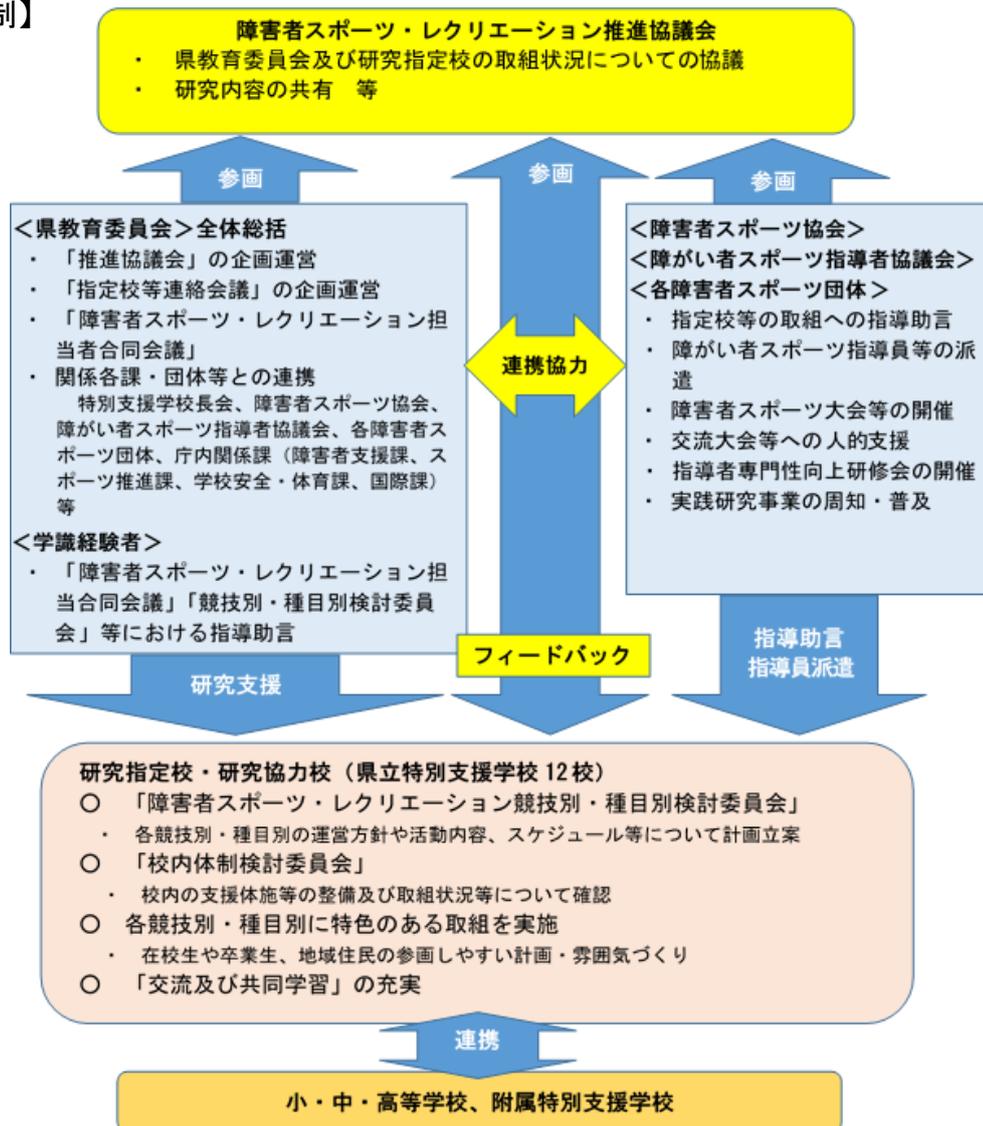
構成：各特別支援学校長（13校）

連携団体：県障害者スポーツ協会、県障がい者スポーツ指導者協議会、各障害者スポーツ団体、庁内関係課（障害者支援課、スポーツ推進課、学校安全・体育課）等

3 事業の実施体制 【実施の概要】



【運営体制】



4 実施の日程

実施時期	実施事項				備考
	(1) 推進協議会	(2) 競技・種目別 検討委員会	(3) 障害者スポーツ 指導員等の派遣	(4) パラリンピアン 等との交流	
5月	第1回推進協議会	検討委員会 (全体会議・打合せ)			採択前
6月			障害者スポーツ指導 員の派遣(陸上・バス ケ・フットベース)		
7月		種目別検討委員会			
8月			F I Dバスケットボ ール交流大会		
9月					
10月		フェスティバル実行 委員会 種目別検討委員会			
11月			あいサポートスポ ーツフェスティバル 各競技体験	パラリンピアンとの 交流(スペイン陸上代 表オセス氏)	
12月				オリンピックとの交 流(山崎勇喜氏、井村 久美子氏)	
1月		種目別検討委員会			
2月	第2回推進協議会				
3月		フェスティバル実行 委員会			
実施時期	実施事項				備考
	(5) アスリート等 との交流	(6) 県内外大会へ の参加	(7) 交流及び共同 学習の実施	(8) 先進県視察及 び成果報告会参加	
5月					
6月					
7月			特別支援学校と高校 とのボッチャ交流会		
8月		F I Dジャパンチャ ンピオンシップバス ケットボール大会	スポーツ指導員によ る身体能力向上トレ ーニング講習会		
9月					
10月	車椅子アメフト体験 会	中四国F I Dバスケ ットボール交流大会	車椅子アメフト体験 会		
11月	やまぐちパラアスリ ートとの交流 フライングディスク 教室		フライングディスク 教室		
12月			オリンピックとの交 流及び共同学習(山崎 勇喜氏、井村久美子 氏)		
1月				スポーツ庁成果報告 会 先進校視察(沖縄県)	
2月		九州地区知的障害者 フットベースボール 交流大会		先進校視察(東京都)	
3月					

5 事業の概要

(1) 障害者スポーツ推進協議会（年2回実施）

- ・ 県内各特別支援学校長を中心に、各関係団体の参画のもと、県の施策及び事業の円滑な推進に向けての協議を行った。
- ・ 各特別支援学校と関係団体との連携により、特別支援学校を中心とした地域スポーツクラブへの障害者スポーツ指導員等の派遣や障害者スポーツイベントの開催など、学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の一層の充実に資すことができた。

(2) 障害者スポーツ・レクリエーション競技・種目別検討委員会

- ・ 各特別支援学校の特色に応じて取り組んでいるスポーツ活動について、障害者スポーツ指導員等の参画のもと検討委員会を開催し、活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営等について確認を行うことができた。
- ・ 各競技・種目別に委員会を開催しながら取組を進めており、また、定期的に各競技間の情報交換を行うなど、組織的な体制整備及び相互連携の一層の充実に図ることができた。

(3) 各特別支援学校への障害者スポーツ指導員等の派遣

- ・ 障害者スポーツ指導員等の参画により、部活動やレクリエーション等の指導内容の工夫・改善につながり、教員の指導や生徒の活動の幅が増えるなど、活動が充実してきている。
- ・ 教職員及び生徒に対し、国際陸上競技連盟認定コーチを講師として、教職員及び生徒に対し身体能力開発プログラムを実施し、生徒の身体能力や指導者の専門性を効果的に高めることができた。
- ・ 各競技において、障害者スポーツ指導員の参画により、専門的な指導を交えながら選手の育成を図ることができ、選手の練習への取組や大会参加に向けた意欲の向上につながっている。

【障害者スポーツ指導者実技講習会】



概 要

教職員及び生徒に対し、国際陸上競技連盟認定コーチ（やまぐちスポーツ医・科学サポートセンター 山田敢一所長）を講師として、コーディネーショントレーニングや神経系改善・向上ドリル等を活用した身体能力開発プログラムを実施。プログラムの内容を、参加した生徒に対し実際に指導しながら講習が行われ、参加した指導者の専門性を効果的に高めることができた。

(4) オリンピアン・パラリンピアン等との交流

- ・ オリンピアンやパラリンピアン、障害者アスリート等との交流により、「ほんもの」のスポーツに触れることにより、生徒は競技力向上に向けた意識が芽生え、日々の練習に取り組む姿勢に変化が見られるようになった。
- ・ また、生徒だけでなく、指導者の意識にも変容が見られ、指導内容の工夫・改善に取り組む事例等が増えた。スポーツに興味が高かった生徒についても、生涯にわたってスポーツ等に親しむ意識等が醸成されつつある。

【あいサポートスポーツフェスティバル】



概 要

庁内関係課、障害者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会と県教委で実行委員会を立ち上げ、スポーツフェスティバルを開催。パラリンピアン（スペイン陸上・オセス選手）との交流、障害者スポーツ体験（9団体14種目）、スペインホストタウンフェア、特別支援学校作品展示等を包括的に実施した。

体験種目：陸上競技、車椅子バドミントン、フライングディスク、車いすバスケットボール、アンプティサッカー、ビームライフル、ボッチャ等

【オリンピックによる陸上教室】



概 要

地域の障害者陸上クラブの拠点である特別支援学校において、特別支援学校生徒、陸上クラブ部員、近隣の小中学校児童生徒が参加したオリンピック（走幅跳・井村久美子選手）による陸上教室を実施した。

参加選手の競技力の向上とともに、生涯にわたってスポーツに親しむ意識の醸成につながった。

(5) 県内外大会への参加

- ・ 各競技・レクリエーション競技・種目別の大会への参加機会が増えたことにより、スポーツ等に取り組む生徒の意欲が高まるなど、意識に変化が見られた。
- ・ また、経験や体験を通じて、生徒の社会性の向上とともに自信につながり、学校生活や日常生活での活動にも積極性が見られるようになった。
- ・ こうした生徒の変容を実感することにより、教員や障害者スポーツ指導員等の指導者の意欲の向上にもつながっている。

(6) 交流及び共同学習の実施

- ・ 障害者アスリート等の参画によるスポーツ教室等を通じて、特別支援学校と小・中・高等学校の生徒が交流及び共同学習を行った。スポーツを通じた交流を楽しみ、相互理解を深めることができた。
- ・ スポーツを通じた交流及び共同学習に継続的に取り組むことにより、小・中学校等の児童生徒においては、障害や障害のある児童生徒への理解につながり、特別支援学校の児童生徒との交流を自然に行うことができるようになった。
また、特別支援学校の児童生徒においては、小・中学校等の学校紹介や継続的な交流及び共同学習を通じて、徐々に不安なく活動に参加することができるようになるなど、社会性の醸成につながった。
- ・ スポーツを通じた交流だけでなく、特別支援学校の生徒の美術作品や作業製品の展示・販売を一体的に行う特別支援教育フェスティバルを商業施設で開催するなど、文化・芸術活動等を通じた交流に取組、地域住民との交流を通じて、特別支援学校や障害への理解促進を図り、共生社会の実現に向けた相互理解を一層推進することができた。

【オリンピックによる運動教室】



概要

特別支援学校において、全校児童生徒及び近隣小学校児童が参加した、オリンピック（競歩・山崎勇喜選手）による講演会、運動教室を実施した。オリンピックとの交流及び共同学習の実施により、スポーツを通じて感動を共有する機会、障害の有無を超えて相互に心を触れ合う機会を創出することができた。

【特別支援教育フェスティバル】



概要

大型ショッピングモールの特設会場で2日間、県内すべての特別支援学校が参加し、美術作品や学習活動の展示、実習等で作成・栽培した製品や作物の展示並びに販売を行うフェスティバルを開催した。

フェスティバルをとおして、特別支援学校相互の連携、協力を推進するとともに、広く県民に特別支援学校の取組、障害及び障害のある児童生徒への理解の促進を図ることができた。

(7) 学事訪問等

- ・ オリパラ教育を推進する特別支援学校の視察や本事業を活用している自治体の取組を知ることにより、各学校や地域の特色ある取組や体制整備、指導者育成等について研究することができた。今後、本県の取組の参考とし、障害のある生徒が生涯にわたってスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう、特別支援学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の充実を図っていく。

6 今後の展望等

(1) 事業実施の結果、影響分析等

- ・ モデル校の児童生徒及び卒業生を中心に、スポーツやレクリエーションを楽しむことができる場が形成されつつあり、モデル校での取組を参考に、県内の特別支援学校においても、スポーツやレクリエーションを行う機会の拡充につながっている。
- ・ 近隣の小・中学校や高等学校、地域の方等とスポーツやレクリエーションを通じて交流及び共同学習を行うことにより、互いに自然と会話が進むなど、障害や障害者理解、相互理解が促進されている。
- ・ 関係課や団体等との連携により、特別支援学校の児童生徒等や障害者が、様々な大会や競技、体験交流等を行う場へ参加する機会が拡充され、障害者のスポーツ等への参加意欲や技能の向上につながっている。

(2) 今後の課題、施策の方向性等

- ・ 特別支援学校を拠点としたスポーツクラブの立ち上げに向けて検討を進めているが、支援者や活動資金の確保が課題であり、引き続き障害者スポーツ協会等と連携して、指導者や障害者スポーツを支援するボランティアバンク等の整備を進めていく必要がある。

- 地域等への周知を図るなど、障害や障害者理解、心のバリアフリーを促進し、障害のある人が安心して取り組める生涯スポーツの場を確保するとともに、特別支援学校と地域がともにスポーツやレクリエーション活動等に取り組む、その充実のための体制整備・構築に取り組んでいきたい。

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、山口県が実施した2019年度 Special プロジェクト 2020（特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。